

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年6月16日(2005.6.16)

【公表番号】特表2001-508818(P2001-508818A)

【公表日】平成13年7月3日(2001.7.3)

【出願番号】特願平10-519366

【国際特許分類第7版】

C 0 8 L 83/10

B 3 2 B 25/20

C 0 9 J 7/02

C 0 9 J 175/00

C 0 9 J 183/10

【F I】

C 0 8 L 83/10

B 3 2 B 25/20

C 0 9 J 7/02 Z

C 0 9 J 175/00

C 0 9 J 183/10

【手続補正書】

【提出日】平成16年9月27日(2004.9.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書



平成16年 9月27日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第519366号

2. 補正をする者

氏名(名称) ミネソタ・マイニング・アンド・
マニュファクチャリング・カンパニー

3. 代理人

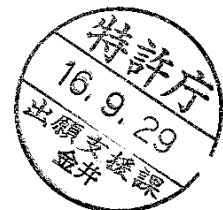
住所 〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 F A X 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 葆



4. 補正対象書類名 明細書及び請求の範囲

5. 補正対象項目名 明細書及び請求の範囲



6. 補正の内容

- (1) 請求の範囲を別紙の通り訂正する。
- (2) 明細書第39頁表2の第1行第2列、
同第41頁表3の第1行第2列、及び
同第43頁表4の第1行第2列、「 180° 剥離接着力 (N/m^2)」
とあるを各々「 180° 剥離接着力 (N/dm)」に訂正する。
- (3) 同第44頁第6行、「比較例C6～C9」とあるを「比較例C8～C9」に訂正する。
- (4) 同第47頁第8行、「この実験には、・・・使用した。」とあるを削除する。

以 上

[別 紙]

請求の範囲

1. (a) ポリジオルガノシロキサン流体を除く、熱可塑性材料、ゴム弾性熱硬化性材料およびそれらの混合物からなる群から選択される少なくとも1種の有機ポリマーと；

(b) 軟質ポリジオルガノシロキサン単位、硬質ポリイソシアネート残基単位、要すれば、軟質および／または硬質有機ポリアミン残基単位および末端基を有し、該ポリイソシアネート残基がポリイソシアネートから-NCO基を引いたものでり、該ポリアミン残基がポリアミンから-NH₂基を引いたものでり、該硬質ポリイソシアネート残基および該硬質ポリアミン残基が、ポリジオルガノシロキサンウレア含有成分の50重量%未満を構成し、該少なくとも1種の有機ポリマーと非混和性であるポリジオルガノシロキサンウレア含有成分との；
混合物において、

該少なくとも1種の有機ポリマーの全てが有機繊維の形態ではない、混合物。

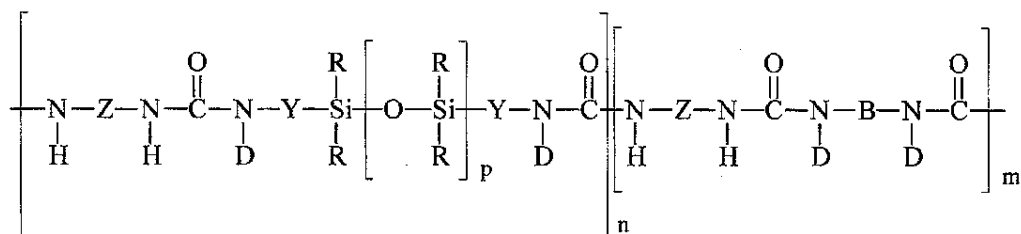
2. (a) ポリジオルガノシロキサン流体を除く、熱可塑性材料、ゴム弾性熱硬化性材料およびそれらの混合物からなる群から選択される少なくとも1種の有機ポリマーと；

(b) 軟質ポリジオルガノシロキサン単位、硬質ポリイソシアネート残基単位、要すれば、軟質および／または硬質有機ポリアミン残基単位および末端基を有し、該ポリイソシアネート残基がポリイソシアネートから-NCO基を引いたものでり、該ポリアミン残基がポリアミンから-NH₂基を引いたものでり、該硬質ポリイソシアネート残基および該硬質ポリアミン残基が、ポリジオルガノシロキサンウレア含有成分の50重量%未満を構成し、(i) 少なくとも1種のポリジオルガノシロキサンジアミン、または少なくとも1種のポリジオルガノシロキサンジアミンと少なくとも1種の有機ポリアミンとの混合物を含む少なくとも1種のポリアミンと、(ii) 少なくとも1種のポリイソシアネートとの反応生成物である、ポリジオルガノシロキサンウレア含有成分との；
混合物において、

該少なくとも1種の有機ポリマーの全てが有機繊維の形態ではない、混合物。

3. (a) ポリジオルガノシロキサン流体を除く、熱可塑性材料、ゴム弾性熱硬化性材料およびそれらの混合物からなる群から選択される少なくとも1種の有機ポリマーと；

(b) 反復単位



[式中、各Rは、各々独立に、炭素原子を約1～12個有し、たとえば、トリフルオロアルキル基またはビニル基で置換されていてもよいアルキル部分、ビニル基、または、式 $-\text{R}^2(\text{CH}_2)_a\text{CH}=\text{CH}_2$ {式中、 R^2 は $-(\text{CH}_2)_b-$ または $-(\text{CH}_2)_c\text{CH}=\text{CH}-$ であり、aは1、2または3であり、bは0、3または6であり、cは3、4または5である。} で表される高級アルケニル基、炭素原子を約6～12個有し、アルキル基、フルオロアルキル基、およびビニル基で置換されていてもよいシクロアルキル部分、または、アルキル基、シクロアルキル基、フルオロアルキル基およびビニル基で置換されていてもよいアリール部分であるか、あるいはRはペルフルオロアルキル基、フッ素含有基、またはペルフルオロエーテル含有基であり、

各Zは、炭素原子を約6～20個有するアリーレン基またはアラルキレン基、炭素原子を約6～20個有するアルキレン基またはシクロアルキレン基である多価基であり、

各Yは、互いに独立に、炭素原子を1～10個有するアルキレン基、炭素原子を6～20個有するアラルキレン基またはアリーレン基である多価基であり、

各Dは、互いに独立に、水素、炭素原子が1～10個のアルキル基、フェニル基、およびBまたはYを含む環構造を完成して複素環を形成する基から成る群から選択され、

Bはアルキレン、アラルキレン、シクロアルキレン、フェニレン、ポリアルキレンオキシド、およびそれらのコポリマーおよび混合物から成る群から選択され

た多価基であり、

mは0～約1000である数であり、

nは1以上の数であり、及び

pは約5またはそれより大きい数である。]

で表されるポリジオルガノシロキサンウレア含有成分との；

混合物において、

該少なくとも1種の有機ポリマーの全てが有機繊維の形態ではない、混合物。

4. (i) 可撓性基材とその上の被覆とを有する振動減衰複合材、(ii) 可撓性基材とその上の被覆とを有する感圧接着剤被覆製品、又は(iii) 可撓性基材とその上の被覆とを有する剥離剤被覆製品において、該被覆が請求項1～3のいずれかに記載の混合物を含有するもの。

5. (a) 少なくとも1種のポリジオルガノシロキサンウレア含有成分と、ポリジオルガノシロキサン流体を除く、熱可塑性材料、ゴム弾性熱硬化性材料およびそれらの混合物からなる群から選択される少なくとも1種の有機ポリマーを連続的に容器に提供する工程と、

(b) 前記成分を混合して混合物を形成する工程と、

(c) 前記混合物を前記容器から運搬する工程とを、

包含する、請求項1～3のいずれかに記載の混合物を製造する方法。